

## 鎮守様は犬がきらい

むかし、むかし、あつたどよ。

本田村の鎮守様ほんだむら ちんじゅさまがある年の正月十五日(望の正月) もちの晩ばんの賽さいの神かみの火祭りを見ようと思つただど。折り良く雪も止んだので、早目に夕食をすませて、社やしろを出て賽さいの神かみの現場を目指して急がれたんだど。

望もちの正月にもなつと、積雪も一番深い時期で、道みちは今のような直線道路などなく、曲がりくねつた、しかもひと人がようやく通れる程ほどの道幅みちはば、おまけに馬の背中のようにまん中みちが高く両端りょうたんが低く、明るい日中でも歩きづらいところだつたど。

家の軒下のきしたは比較的ひかくてき積雪が少ないので通路がわりになつていたんだど。鎮守様ちんじゅさまが、その軒下のきしたを通つたら突然とつぜん背後から、犬が、